

令和4年度 秋田県立衛生看護学院 保健科推薦入学試験問題

小論文

解答は解答用紙に記入すること。

問題

次の文章を読んで、あなたの考えを述べなさい。

新型コロナウイルスによる感染者の急増で、再び各地で緊急事態宣言が発令され、3密を避ける制約が強化されている。対面のコミュニケーションが禁じられて、人と会えない不満がたまりつつある。一方、テレワークやオンラインの会議が普及して、メールやSNSの情報通信技術を用いれば、かえってコミュニケーションがとりやすくなっているという意見もある。ただ、フェイクニュースやヘイトスピーチ、風評被害など、言葉でだまされ傷つくことが増えると、言葉で世界を作ってきたはずの人間が、逆に言葉に支配されて苦しんでいるような気がしてくる。

いったいコミュニケーションとは何だろうか。私たちは何を伝え合っているのだろうか。

長年、野生のゴリラと付き合ってきたことは、心を読むのに言葉は要らないということだ。ゴリラは人間より体が大きく、強大な力を持っている。長く鋭い犬歯でかまれれば命を失う危険がある。実際、私は2頭のメスに襲われ大けがをした。だから、気持ちを読み違えれば大変なことになると自覚している。

でも仲良くなれば、ゴリラは心の許せる友人となる。声を出してあいさつすれば応えてくれるし、目を見ればいたずら心を起こしているとわかる。慣れれば、後ろ姿を見ただけで気持ちが伝わってくる。言葉が介在しなくても、ゴリラと気持ちを伝え合うことは可能なのだ。人類の祖先も、言葉を話すまでは、おそらく声やしぐさを組み合わせた態度で気持ちを伝え合っていたはずだ。

実は今でも気持ちを伝えるのに、意味のある言葉は要らない。「おはよう」「元気？」などと中身のない言葉を交わすだけで十分だ。声の抑揚や表情、態度で相手の気分や状態がわかるし、自分をどう感じているか伝わってくる。必要なのは言葉の持つ意味ではなく、声や身体の動きで作られる全体的な感触なのだ。(後略)

山極 寿一「科学季評」朝日新聞 2021年(令和3年)8月6日より

- 1) 横書きとする。
- 2) 字数は960字から1,020字とする。